

第8回「私と新聞」親子作文コンクール

入賞作品紹介 ②1・完

私と新聞

西郷村
西郷二中年 久間木 悟志さん

僕にとって新聞とは、自分を成長させてくれる物の一つで、そのきっかけとなったのが、新聞に僕の名前が載った事です。

僕の名前が初めて新聞に載ったのは、小学校一年生の時の夏休みの宿題で行った理科自由研究が入選して銅賞を頂いた時です。自分の名前が新聞に載っていて、すごくうれしかった事を覚えています。それから毎年理科

自由研究を出品して、昨年よりは一つでも良い賞をと上を目指す様になりました。その結果、特選まで取る事が出来ました

が、あと一步の所で西白河郡の代表になる事は出来ず、悔しい思いをしました。しかし、その悔しさをばねに、中学生になった今、勉強に部活に励んでいます。

小学生までは自分の名前が載るのがすごくうれしく、記事の内容などを

深く理解する事があまりありませんでしたが、最近では社会科の授業などで世界の争いや、日本の政治の問題などを勉強しているの、新聞を深読みすることにより、内容を理解しやすくなりました。

また、テレビ等で流れているニュースよりも細かく情報を知る事が出来る

来、政治や地域の情報を正確に得る事が出来る利点もあります。

新聞に名前が載る事は、うれしい事ですが、それ以上に新聞にはたくさんさんの情報がつまっています。その情報を有効活用して自分を成長させていきたいと思っています。

私と新聞

母 久間木 洋子さん

子供の頃、私の朝の仕事はポストから新聞を取

父はその新聞を端から端まで読み仕事へ出掛けた事を思い出します。それ

から三十年が経った今、親になり、朝新聞に目を通す自分の姿を思い返すと、昔の父の姿を思い出します。あの時父は、何を思っていたのだろうかと考えます。

私は、子供の色々な表彰を楽しみにして、我が子の名前が新聞に載ったりすると、うれしくなり、とても幸せな気持ちになります。父もそんな気持ちで新聞に目を通していたのかなと考える時があります。

また私には一つお気に入りのコーナーがあります。それは、みんなのひろばというコーナーで、色々な年代の方々が自分の考えや感じた事柄を投稿しています。それを読

むのが毎日とても楽しみです。同じ問題でも年代が違えば捉え方も違ってきてしまいます。人の見る角度によって色々な違う考え方もあるのだと改めて感じる事が出来ま

す。大人になると、どうしても我を通したくなり、人の意見に素直に耳をかたむける事がなかなか難しくなります。そんな時、みんなのひろばに投稿した方々の事を思い出し、私はもっと広い心で他の人の意見を聞かなければと思います。

私にとって新聞とは、たくさんの方々の考え方を学べるテキストだと思っています。これからも毎日の新聞を楽しみにして、人の絆を大切にしたいと思